

# 東京障害者職業能力開発校における就職支援について

東京障害者職業能力開発校 就職・生活指導担当課長代理 椎谷 郁子

## 1. はじめに

東京障害者職業能力開発校は、一般の職業能力開発センター（校）で職業訓練を受けることが困難な障害者を対象として就職に向けた職業訓練を行う施設である。武蔵野の面影が残る緑多い東京都小平市に位置し、今年で開設73年目である。

身体、知的、精神・発達等さまざまな障害を持つ、高校・特別支援校を卒業したばかりの18歳から60代の生徒が、3カ月、6カ月、1年の期間、就職を目指して訓練を受講している。

年齢、経歴、障害の種類や程度もまちまちな生徒が在籍するため、就職活動も一人一人の生徒に合ったきめ細かい支援ができるよう、日々研さんを重ねながら取り組んでいる。

## 2. 指導・支援体制

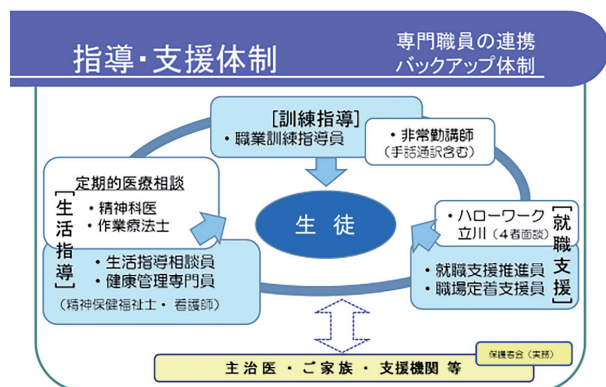


図1

当校の指導・支援体制は図1のように、生徒一人に対して訓練指導、生活指導、就職支援それぞれにおいて専門職員が連携し行っている。

さらに、訓練を受講し技能を身に着け就職に導くためには、主治医、家族、地元の就労支援機関との連携も重要なポイントとなっている。

今回は、特に当校の就職支援についてご紹介する。

## 3. 入校から修了までの流れ

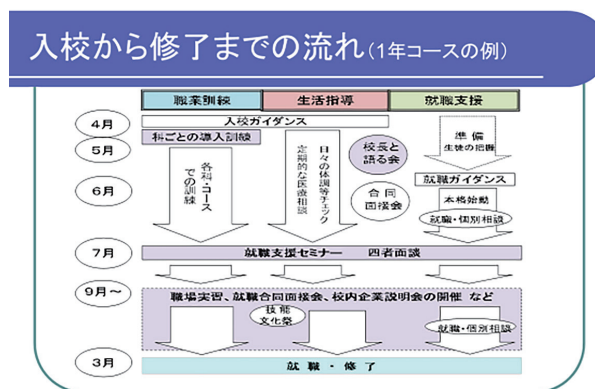


図2

図2は1年コースの入校から修了までの流れを図示したものである。入校するとすぐに「入校ガイダンス」があり、校での訓練や生活について詳しく説明される。そして、日々の訓練に慣れてきたころから徐々に就職に関する行事が実施される。それぞれの行事を簡単に説明していく。

### 3.1. 校長と語る会

訓練生活が始まり、約1カ月経過したころ、校の管理職と生徒が懇談する「校長と語る会」を実施している。まず、管理職から自己紹介が行われ、生徒がリラックスしたところで、今度は生徒から校生活の感想や将来についての希望を順番に話していく。希望者だけが話すのではなく、クラス全員が話すとともに管理職からは簡単な質問もされ、生徒はそれにこたえていく。比較的ざっくばらんに懇談しながらも、企業の面接を踏まえた練習の場として大切な意味を持つ。用意した自分の考えだけでなく、その場でのやり取りを経験し、生徒は少しずつコミュニケーションの取り方を学んでいく。

### 3.2. 就職ガイダンス

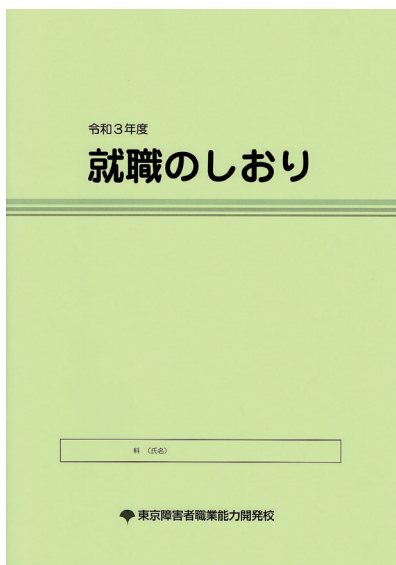


図3

「校長と語る会」と前後して、生徒全員が一堂に会して就職活動の心構え、準備、校の就職支援の概要の説明を受ける「就職ガイダンス」が行われる。ガイダンスはスライドや図3の『就職のしおり』を使用して就職担当の職員がわかりやすく詳細に説明していく。『就職のしおり』は就職担当職員で内容を検討し、生徒に適切な情報を届けられるよう毎年改定している。令和3年度は、最近増えてきたオンライン面接についての心得を新たに掲載した。

「就職ガイダンス」を終えると生徒は、さらに就

職活動への意欲を高めていく。

### 3.3. 就職支援セミナー

校生活に慣れてきた6月に毎年開催している。企業の人事担当者からは、企業概要の説明、就職の心構え、採用にあたってのポイント等を講演いただく。校の修了生からは校生活の思い出、訓練の状況や自身の就職活動を振り返っての話等、具体的な話が聞けるとともに、先輩社員として会社での様子なども聞くことができ、就職がより身近に感じられる、またとない機会です。生徒は真剣な表情で受講している。

### 3.4. 四者面談

| キャリアシート                   |  |                      |       |       |                   |         |     |  |  | 求職番号 |  |
|---------------------------|--|----------------------|-------|-------|-------------------|---------|-----|--|--|------|--|
| 科名                        |  |                      |       | フリガナ  | 氏名                |         | 年齢  |  |  |      |  |
| 住所                        | 〒  | 一                    | 住所    | 入寮・通校 |                   | 転居の可否   | 可・否 |  |  |      |  |
| 最寄り駅                      | 線 駅                                      |                      | バス    | 分     | 徒歩                | 分       |     |  |  |      |  |
| TEL                       | FAX                                      |                      | Email |       |                   |         |     |  |  |      |  |
| 最終学歴                      | 中 学 ・ 高 校 ・ 高 専 ・ 短 大 ・ 大 学              |                      |       |       |                   | 卒業 ・ 中退 |     |  |  |      |  |
| 障害名                       |  |                      |       |       |                   | 級・度     |     |  |  |      |  |
| 希 望 条 件                   | 職 種                                      | ①                    | ②     |       | ③                 |         |     |  |  |      |  |
|                           | 就業場所                                     | 23区・多摩・近県( )・その他( )  |       |       | 通勤時間              |         | 分以内 |  |  |      |  |
|                           | 賃金(税込)                                   | 月 額                  | 円     |       | (時 給)             |         | 円   |  |  |      |  |
|                           | 勤務時間                                     | 時 分 ~ 時 分            |       | 電話応対  |                   | 可・否     |     |  |  |      |  |
|                           | 雇用形態                                     | 正社員                  |       | 契約社員  | パート               | その他( )  |     |  |  |      |  |
| その他                       | 休 日                                      | 土 ・ 日 ・ 祝 日 ・ その他( ) |       |       |                   |         |     |  |  |      |  |
|                           | 車通勤希望                                    | 有・無                  |       | 通 院   | 有 ( 月 回 曜 日 ) ・ 無 |         |     |  |  |      |  |
| 仕事をする上で配慮してほしいこと (障害に際して) |  |                      |       |       |                   |         |     |  |  |      |  |
| 職 歴                       | 資格・免許                                    |                      |       |       |                   |         |     |  |  |      |  |
|                           | 職 種                                      | 具体的にどんな仕事をしましたか      |       |       |                   |         |     |  |  |      |  |
|                           | 職 種                                      | 具体的にどんな仕事をしましたか      |       |       |                   |         |     |  |  |      |  |
|                           | 職 種                                      | 具体的にどんな仕事をしましたか      |       |       |                   |         |     |  |  |      |  |
| 自己PR (120字以内)             | これまで自信を持ちやり遂げるために努力したこと、経験・特技・やってみたい仕事など |                      |       |       |                   |         |     |  |  |      |  |
|                           | 就職活動に際してハローワークに関きたいこと、情報提供してほしいこと        |                      |       |       |                   |         |     |  |  |      |  |

図4

「四者面談」は就職活動を始めるにあたり、生徒、ハローワーク職員、職業訓練指導員、就職担当職員の四者が共通の認識を持ち、スムーズに就職活動を支援できるよう、入校後約3カ月の時点で実施している。

生徒は図4の「キャリアシート」の作成に取り掛

かる。内容は就職する際の希望条件や職務経歴、自己PR、ハローワークへの質問等多岐に渡る。

生徒自身が自己を振り返り、新たな気持ちで一歩踏み出すきっかけになるよう、指導員や就職担当職員は何度も面談を重ねながら丁寧に指導していく。

### 3.5. 校内企業説明会

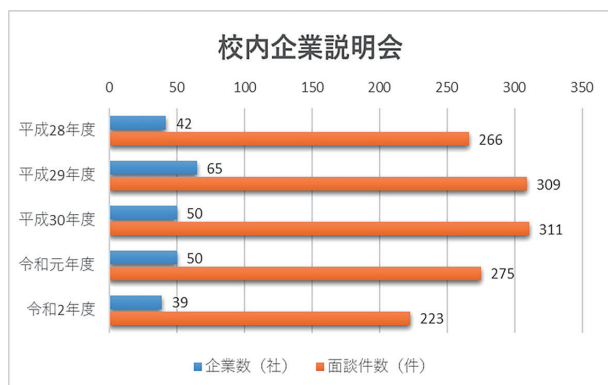


図5

「校内企業説明会」は、年4回（5月、9月、11月、2月）当校の生徒の就職を前向きに検討して下さる企業の人事担当者を招いて、企業のプレゼンテーションと生徒との懇談の場を設ける行事である。この説明会を経て、生徒の職場実習の受け入れにつながり選考に進むこともあり、貴重なマッチングの機会となっている。

過去5年間の参加企業数と面談件数は図5のとおりで、昨年度はコロナの影響で5月は開催できなかったが、毎年約50社が来校し、希望すれば何件も面談を受けることができるので、一人で複数申し込む生徒もあり、年間300件前後の面談が実施される。

### 3.6. 合同面接会、職場実習面談会

校で訓練を受けることのメリットの一つが、ハローワーク主催の「合同面接会」参加への支援である。ハローワークに出向かずに情報を入手することができるとともに、参加にあたっての心構えや応募書類の書き方のアドバイスなどを校の職員から受けることができ、安心して参加の準備をすることができる。

他にも、企業の現場で仕事を体験することで、自

分の新たな課題を発見することができる、東京しごと財団主催の「職場体験実習面談会」の申し込みも校を通じてできるので、訓練に集中して取り組みながら、就職活動も同時に進めることができるのも生徒のメリットである。

## 4. 関係機関との連携

校では、ハローワーク、各自治体、就労支援機関等関係機関との連携に力を入れている。

毎年、年度当初には当校の管轄であるハローワーク立川の専門援助部門の職員と年間事業の綿密な打ち合わせを行い、貴重な情報共有の場となっている。

また、東京都福祉保健局、東京都教育庁、都内区市町村等が主催する各種連絡会議に参加し、国や自治体の施策等、最新の情報を収集するとともに、連絡会議のメンバーと障害者の就職状況や生活支援等について懇談の機会を得ることができる。時には就労支援機関が開催する会議で、校の取組等の事例紹介の機会をいただくこともあり、関係機関との連携は、生徒の就職支援のための貴重な情報交換の場となっている。

## 5. 企業への働きかけ

障害者採用を前向きに考えている企業との連携は、校の指導員や就職担当の腕にかかっていると一言しても過言ではない。生徒にミスマッチの無い就職をしてもらうために支援する側も常に企業研究を怠らない。

ここでは、企業への働きかけについて述べていくこととする。

### 5.1. ハローワークを通じての企業見学会

障害者求人を検討している企業を各ハローワークがとりまとめ、団体での説明会を毎年実施している。訓練内容や目指す資格、主な就職先などを説明し、当校の生徒に興味を持ってもらうことが主な目的である。



## 5.2. 企業人事担当者の当校見学，個別求人問い合わせへの対応

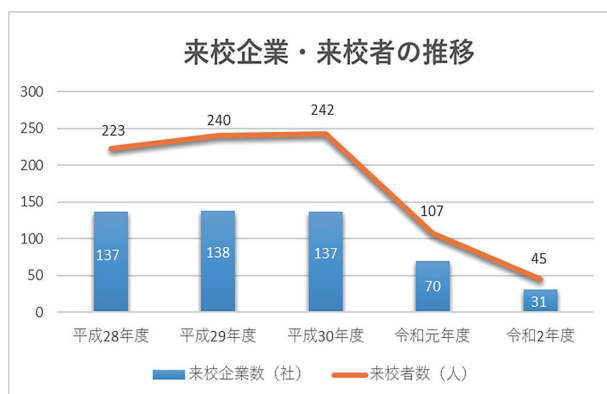


図6

過去5年間の来校企業数と来校者数の推移は図6のとおりとなっている。過去には約140社，約250人の人事担当者が求人相談に来校している。近年は新型コロナウイルス感染症の影響で来校企業数，来校者数ともに減少傾向にあるが，電話での問い合わせも多数きている。初めて障害者を受け入れる企業からの問い合わせは具体的で，時には急を要する相談もあり，当校の就職担当職員が長年の経験と実績を踏まえて丁寧に対応している。これがきっかけとなり，相談校内企業説明会への参加や職場実習受け入れにつながることも多い。

## 6. 生徒の就職

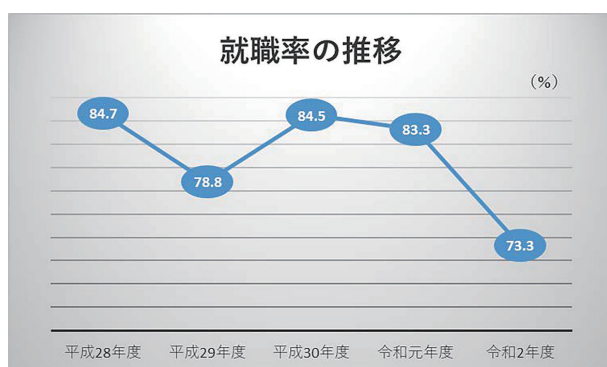


図7

当校生徒の過去5年間の就職率の推移は図7のとおりとなっており，ほぼ80%で推移している。令和2年度は80%を大きく割り込んだ結果となったが，こ

れは新型コロナウイルス感染症の影響で，企業の採用活動が例年に比べ低調だったことが要因である。

また，毎年生徒が多数参加するハローワーク主催の合同面接会も昨年はすべて中止となったことも追い打ちをかける形となった。

次に，令和2年度の就職者77人の就職先の内訳についてであるが，図8のとおりとなっている。

障害者の就職活動はまず大きく2つに分かれる。障害者求人と一般求人である。さらに一般求人に応募する際には，自分の障害を公開（オープン）にする場合と非公開（クローズ）にする場合がある。それぞれメリット，デメリットがあるが，生徒と丁寧に面談を重ねるうちにほとんどの生徒が自分の障害を公開して就職を目指すようになってきている。

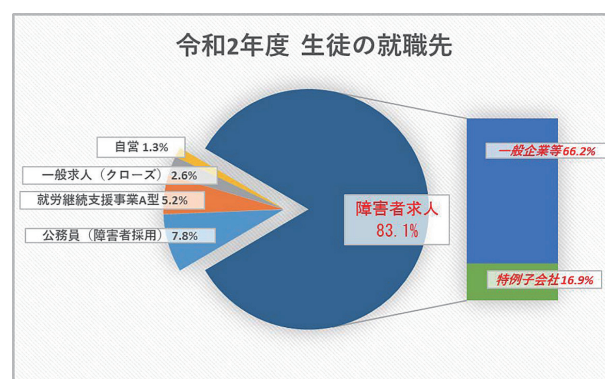


図8

就職者77人のうち一番多いのが障害者求人（64人，83.1%）を利用した就職で，その内訳は一般企業等（51人，66.2%）と特例子会社（13人，16.9%）に分かれる。次いで公務員（6人，7.8%），就労継続支援事業A型（4人，5.2%），一般求人（クローズ）（2人，2.6%），自営（1人，1.3%）と続く。

障害者求人は，障害者だけが応募できる求人で，採用前に職場実習を必須としている企業も多く，訓練中に職場実習を体験することができるのがメリットである。実習終了後には企業から詳細な報告書が送付される。企業は生徒の障害特性を事前に理解することができ，就職後のミスマッチを解消することが期待でき，一方生徒は適性や就職後のイメージをつかむことができるので，残念ながら不採用となってしまった場合でも，実習の振り返りをして次の就

職活動につなげることができる。

特例子会社は、就職した後も会社内に支援者が配置されていることや、休憩や通院、勤務時間等の特別な配慮をしてもらえることも多く、障害者が多数働く環境で安心して勤め続けることが期待できる。都内には特例子会社が多数存在し、就職先として選択できることも当校に通うメリットといえる。

## 7. 定着支援

生徒は無事就職が決まると、当校職員の支援の下、入社への準備を始める。

入社後は当校の専任の職場定着支援員が中心となり定着支援を実施する。当初は当校職員とともに生徒が登録する就労支援機関のスタッフと一緒に企業に出向いている。そして、おおむね1年後には地元の就労支援機関に定着支援のバトンを渡す。

定着支援時の面談で修了生から聞く悩みや不安は以下のとおりである。

- ・ 職場に自分の障害や症状について相談できる人がいない。
- ・ 障害の配慮について、伝え方がわからない。
- ・ 職場の環境は良いが、どうしても頑張りすぎて疲れている。
- ・ 短時間勤務から始めたが、慣れてきたのでもう少し働く時間を長くしたい。どのように上司に言ったらよいか。
- ・ 職場から業務内容を増やしていく提案をされたが、まだ自信がない。

定着支援時に修了生からこのような相談を受けたときには、企業と丁寧な時間をかけて解決を図る。

また、企業からは次のように言われることがある。

- ・ 勤怠を安定させて、長く働いてほしい。
- ・ 訓練で培った技能を生かして戦力となってほしい。
- ・ 障害者採用した社員が、最近調子が悪そうに見えるが、悩み事があるのか心配だ。

安定して長く働き続けることは企業、当校職員等、支援する者すべての願いである。修了生が安心して働けるよう、入社後の定着支援は非常に重要な責務であり、職員は在校生支援と同じくらい注力し日々業務にあたっている。

このような時間をかけた丁寧な定着支援が功を奏し、「令和2年度の修了生実態調査」の結果、約9割が1年後も働き続け、3年後には約7割が最初の勤務先で働き続け、約2割が最初の勤務先を退職しているが、再就職し働き続けている。

## 8. おわりに



6月に厚生労働省東京労働局により発表された「令和2年度における障害者の職業紹介状況等」によると、コロナ禍によりハローワークを通じた障害者の就職件数は5,624件で対前年度比24.7%減と大幅に減少する厳しい結果となった。当校の生徒の就職率も、前年度を約10ポイント下回る結果となったことは前述のとおりである。

東京障害者職業能力開発校では、このような厳しい状況にあっても、生徒一人ひとりにとってふさわしい進路に導くため、「チーム東障校」として職員一丸となり、今日も生徒の就職支援に懸命に取り組んでいる。